

Roland  
V.Piano

## 第37期報告書

2008年4月1日から2009年3月31日まで

株主の皆様へ  
トップインタビュー  
トピックス  
新製品のご紹介  
営業の概況  
連結財務諸表(要旨)  
会社の概要  
株式の状況

**ローランド株式会社**

証券コード 7944

創造の喜びを  
世界にひろめよう

BIGGESTより  
BESTになろう

共感を呼ぶ企業にしよう

「創造の喜びを世界にひろめよう」—— このスローガンのもとに、ローランド・グループは着実に事業領域を広げています。イメージを音にする、映像にする、カタチにする、それらを組み合わせる、これが我々のチャレンジです。「創造」という文化を担う一企業として、常にその社会的責任を強く認識し、全てのステークホルダーにとって「共感を呼ぶ企業」となるよう「BEST」を尽くしてまいります。

## 株主の皆様へ

株主の皆様には、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

当社第37期（2008年4月1日から2009年3月31日まで）の事業概要および決算について、ご報告申し上げます。

当期における世界経済は、米国に端を発した世界的な金融危機が実体経済にも影響を及ぼし、景気の後退が深刻化しました。日本においては、急激な円高の進行も加わり、非常に厳しい経済環境となりました。

このような経営環境の中、電子楽器事業では、より多くの方に音楽を楽しんでいただける商品からプロ用の商品まで、商品ラインアップの拡充と新規需要の創造を図るとともに、流通チャネルの強化や、お客様への商品訴求に努めました。これにより、年度前半までは、国内外ともに新製品を中心に概ね堅調に推移しましたが、年度後半以降は、世界的な景気後退の影響を受け、主に北米や国内において販売が伸び悩みました。また、円高の影響も大きく、電子楽器事業の売上高は、588億75百万円と前期比40億68百万円（6.5%）の減収、営業利益は、生産高の減少による原価率の悪化も加え、14億89百万円と前期比17億95百万円（54.6%）の減益となりました。

一方、コンピュータ周辺機器事業では、「カラー（業務用大型カラー・プリンター）」と「3D（3次元入出力装置）」の二分野を中心に積極的な事業展開を図りましたが、世界的な設備投資意欲の後退と円高の影響により、売上高は416億31百万円と前期比39億85百万円（8.7%）の減収、営業利益は生産高の減少による原価

率の悪化と販売費及び一般管理費の増加等もあり、59億40百万円と前期比41億8百万円（40.9%）の減益となりました。

以上の結果、全体では売上高は1,005億6百万円と前期比80億53百万円（7.4%）の減収、営業利益は74億30百万円と前期比59億3百万円（44.3%）の減益となりました。経常利益は、営業減益に加え、円高による外貨建資産等の為替差損が発生し、60億50百万円と前期比70億39百万円（53.8%）の減益、当期純利益は、株式市場の低迷による投資有価証券の評価損の影響が大きく、10億47百万円と前期比25億73百万円（71.1%）の減益となりました。配当金につきましては、1株につき15円（中間配当金を含めて年間配当金は1株につき30円）とさせていただきます。

世界景気の本格的な回復は2009年度後半以降になると予測され、国内においても個人消費、設備投資ともに低調に推移し、為替も円高基調が続くと思われます。このような厳しい環境下、電子楽器事業においては、当社のコア・コンピタンスである独自技術を用いた高付加価値製品に加え、年齢、性別に関わらず、より幅広い顧客層に楽器演奏の楽しみをご提案する製品開発を推進し、新規需要の創造を図ります。コンピュータ周辺機器事業においても、付加価値の高い製品の開発、投入を通じ、新市場の開拓、ニーズの発掘を継続していきます。

株主の皆様におかれましては、今後ともご支援を賜りますよう、よろしく願い申し上げます。

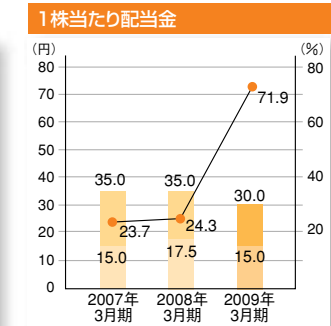
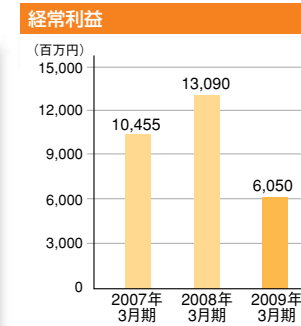
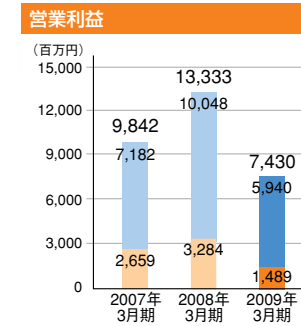
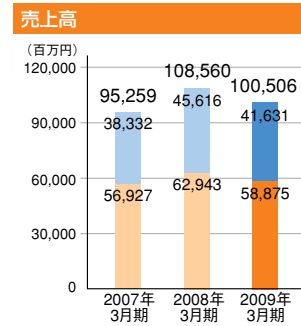


取締役社長  
田中 英一

2009年6月

## ■ 連結財務ハイライト

- 電子楽器事業
- コンピュータ周辺機器事業
- 連結
- 連結配当性向



## 競争力のある新製品の投入や、 新たな需要創造により販売回復を目指します。

2010年3月期の業績予想について教えてください。

2010年3月期は、売上高は、前期比19%ダウンの811億円、営業利益は89%ダウンの8億円、経常利益は、92%ダウンの5億円となり、最終損益は、連結子会社の営業損失により、法人税に対して税引前当期純利益が過少となり、6億円の純損失を予想しています。

事業別には、電子楽器事業は、売上高が510億円と前期比13%ダウンで、5億円の営業赤字を予想しています。コンピュータ周辺機器事業は、売上高が301億円と前期比28%ダウン、営業利益は78%ダウンの13億円を予想しています。

上半期では、前期からの生産調整が継続しますが、下半期では、現在の為替水準、景気状況にあっても競争力のある新製品の投入や、新たな需要創造により販売回復を目指します。また、コスト、在庫、機種数の削減により、事業の効率化にも取り組んでおりますが、現時点での見込みでは、上半期での低迷を補うことは困難であると予想しています。

また、円高の影響も大きく、2010年3月期の為替レートは、米ドルが90円、前期103円に対して13%の円高、ユーロが120円、前期152円に対して21%の円高を想定しています。円高による影響は、売上高で前期比146億円の減少、営業利益で前期比81億円の減少を想定しています。

下半期の業績回復を支える製品について教えてください。

下半期は、ドラム、ピアノ、業務用音響機器を中心に業績回復を予想しています。いずれも当社だけの強みを支える独自技術を搭載しています。

### (1) 電子ドラム

当社の電子ドラムは、「COSM」と「メッシュ・ヘッド」という二つの技術が差別化の源泉となっています。「COSM」は当社独自のサウンド・モデリング技術です。現実に存在する楽器の素材、形状や音響環境を再現する技術で、ドラムだけでなく、シンセサイザー、エフェクター、アンプ、レコーダーなど、幅広い製品で活用しています。「メッシュ・ヘッド」は、他



VDラムの独創性を象徴するメッシュ・ヘッド

社のゴムパッドとは異なり、静粛性を確保しつつ、演奏性を損なわないメッシュ素材をドラムパッドに張り、それをセンサーで感知する技術です。

今年度も、引き続きこの優位性を活かした新製品により、ラインアップの拡充を図ります。

### (2) 電子ピアノ

今年3月に発売したV-Pianoは、従来のサンプリング音源とは異なり、弦、ハンマー、響板、ダンパーなど、ピアノ音を生み出す各コンポーネント間の複雑な相互干渉を、ローランドのデジタル信号処理技術で再現し、豊かなピアノ音を忠実に創り出します。既に多くのプロミュージシャンから高い評価を得ており、V-Pianoは長いピアノの歴史に、新たな可能性をもたらすものと確信しています。

年内にはこの技術を応用し、ピアノ・ラインアップに幅広く展開します。音質、表現力といった楽器としての基本性能を、さらに磨き上げていきます。

※V-Pianoについては、7ページ「新製品のご紹介」をご覧ください。

### (3) 業務用音響機器

当社の業務用音響機器を支えるのは音声のデジタル伝送技術「REAC」

# TOP INTERVIEW

です。LANケーブル一本で双方向、40チャンネルの音声を、高音質で伝送可能です。この「REAC」を活用したV-Mixing Systemは、2007年の発表以来、ライブハウスや、ホール、放送局、教会などに導入が進み、景気後退局面においても、そのダウンサイジング・コンセプトが受け入れられ、堅調に推移しています。

今年4月には、パーソナルモニターシステムM-48を市場投入しました。このシステムにより、ライブ・ステージ上で、演奏者は自ら、それぞれのモニターミキシングを自在にコントロールすることができます。演奏者それぞれに最適なモニター環境を実現すると同時に、ライブ・ステージの省力化と高音質化も可能とする画期的なシステムです。

業務用音響機器の現場では、アナログからデジタルへの転換期にあり、この「REAC」で差別化を図り、販売拡大を目指します。



取締役社長 田中 英一

	2010年3月期予想			2009年3月期実績	
	金額	対前期比		金額	
売上高	811	△194	△19%	1,005	
電子楽器事業	510	△78	△13%	588	
コンピュータ周辺機器事業	301	△115	△28%	416	
営業利益	8	△66	△89%	74	
電子楽器事業	△5	△19	—	14	
コンピュータ周辺機器事業	13	△46	△78%	59	
経常利益	5	△55	△92%	60	
当期純利益	△6	△16	—	10	
為替レート	US\$	90	△13	△13%	103
	EURO	120	△32	△21%	152



Better Life with Music



V-Drums Lite HD-1



RG-1



CD-2e

昨年より提唱している「Better Life with Music」というコンセプトについて教えてください。

自宅のリビングルームをスタジオやコンサート会場に変え、家族や友達と一緒に音楽を楽しむ、楽器演奏を通じて生活の質の向上を提案するというコンセプトで、新たな楽器需要創造の一環です。

既に、静音電子ドラムV-Drums Lite HD-1、ミニグランド型の電子ピアノRG-1、パソコンなしでオーディオCDが作れる

CD-2eなどを発売してきました。これまでローランドの製品は、バンド演奏や音楽制作作用商品が主力であると思われがちでしたが、この「Better Life with Music」のコンセプトをより鮮明とすることで、購入者の性別や年齢層の幅を広げ、さらなる楽器需要創造の拡大を図ります。

最後に、2010年3月期の配当予想について教えてください。

2010年3月期の配当は、業績予想を考慮し、大変遺憾ながら前期と比較し

て10円減配となる1株当たり年間配当金20円を予想しています。

より一層の事業効率化と販売回復努力により業績の改善をすすめ、2011年3月期には確実に黒字転換できるよう、全社一丸となって取り組んでいきます。

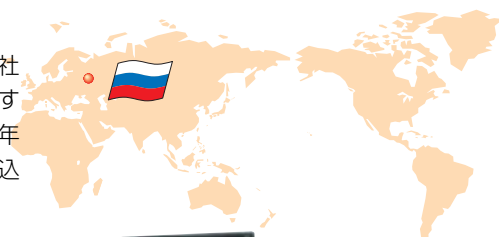
株主の皆様引き続きのご支援、ご理解を賜りますよう、今後ともよろしくお願ひ申し上げます。

トピックス

グローバルネットワーク

## ロシア・モスクワ市に販売合併を設立、2009年4月に営業を開始

中長期的に経済成長が期待されるロシアにおいて、当社の販売合併会社Roland Music LLCを設立しました。当社電子楽器の高い付加価値を訴求することにより、ローランドブランドの確立と販売拡大を目指します。2009年度ロシアにおける販売は、260百万ロシア・ルーブル(約900百万円)を見込んでいます。



ブランド戦略

## コンピュータ・ミュージック関連製品をCakewalk by Rolandブランドで販売

当社はこれまで、コンピュータ・ミュージック関連製品を「EDIROL by Roland」ブランド、音楽制作ソフトなどの製品を「Cakewalk by Roland」ブランドで展開してきましたが、コンピュータ・ミュージック市場における一層のブランド浸透を図るため、今後当社のコンピュータ・ミュージック関連のハードウェアとソフトウェアすべてを「Cakewalk by Roland」ブランドで販売します。



流通戦略

## 新しい流通展開 ローランドがプロデュースするデジタル楽器コーナー第3弾「Planet X」全国展開スタート

2008年11月より、全国の楽器店で当社のデジタル楽器を専門に展示・販売する新コーナー「Roland Planet Express」(通称 Planet X)の展開を開始しました。当社は2004年秋から、提携販売店様との提携により、店舗内にローランド専用の展示コーナー「Roland Planet」をスタート。いつでも試奏可能な充実した商品展示と専任販売員の説明により、当社商品を十分にご理解いただいたうえで、ご購入いただくことが可能です。2006年夏からは、デジタルピアノを中心とする「Roland Foresta」の展開も開始し、拠点数・売上ともに拡大しています。新展開の「Planet X」は、大都市を中心に展開中の「Planet」をよりコンパクトに、展示機種を絞り込むことで、全国主要都市の多くの販売店様が積極的な展開を図れるコーナーとなっており、より幅広いお客様へ当社製品を訴求します。2008年度は14拠点を設置、将来的には全国30拠点まで拡大する予定です。



Roland Planet X

パートナーシップ

## 世界中の演奏家から最高の評価を得る米国マーティン社にアコースティック・ギター用プリアンプを提供

世界的に有名なアコースティック・ギター・メーカーC. F. MARTIN & CO., INC.に、当社独自のデジタル・オーディオ信号処理技術を応用したアコースティック・ギター用プリアンプ・システム「AP-1」を2009年1月から提供しています。「AP-1」により、ギターそれぞれのボディの響きを忠実に再現、より豊かなアコースティック・ギターの響きをつくり出すことが可能になりました。現在「AP-1」搭載の同社ギターは3機種。マーティン・ブランドのエレクトリック・アコースティック・ギターとして、同社代理店より販売されています。



新製品のご紹介

ピアノ音楽に新たな可能性を広げたい。

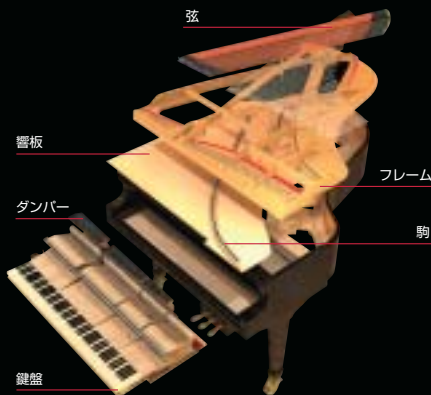
V-Piano 2009年3月発売

アコースティック・ピアノと同じ発音の仕組みを最新のデジタル技術で再現し、歴史的な銘器の音から、これまでにない斬新なピアノ音をつくり出す。自由な発想で、ピアニストの演奏表現力を余すところなく引き出す、画期的なデジタル・ピアノです。

アコースティック・ピアノの発音機構そのものを踏襲した「ピアノ・コンポーネント・ベースの新音源」

従来の電子ピアノには、アコースティック・ピアノの音をデジタル録音した音源(サンプリング音源)が内蔵されていて、鍵盤を弾くと音源が再生される仕組みになっています。このサンプリング音源のクオリティは近年飛躍的に向上し、非常に生々しいピアノ・サウンドになっていますが、アコースティック・ピアノのようにプレーヤーの嗜好に合わせた様々な音のチューニングを施しにくい部分もあります。

■アコースティック・ピアノの各コンポーネント図

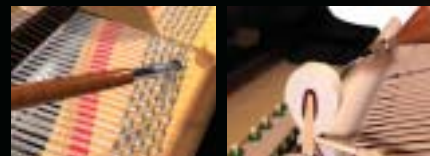


そこでさらなる表現力と音づくりのフレキシビリティを求め、V-Pianoでは、従来のサンプリング音源方式とは異なり、アコースティック・ピアノの発音プロセスを再現した全く新しい音源方式を開発しました。鍵盤を叩くとフレームに張られた金属弦をハンマーが打ち、その音は他の弦も共鳴させながら駒から響板へと伝わり、ピアノ各部やホールへ響きわたる。このようにアコースティック・ピアノを構成する各コンポーネント間の複雑な干渉を、ローランドのデジタル技術で再現しているため、タッチの強弱に応じた音色変化も段階なく極めてスムーズに、減衰音も美しく伸びていきます。表現力豊かでリアリティのある響き、これがV-Pianoならではの究極のピアノ・サウンドです。



PHAⅢアイボリー・フィール鍵盤

V-Pianoに搭載された新音源の豊かな表現力を最大限に引き出す鍵盤も新開発。連打性を格段に向上させ、演奏の違いによる微妙な音色の変化もしなやかに表現します。



弦を調律するイメージ図 ハンマーの硬さを調整するイメージ図



ボタン、ダイヤルの図

ボタン一つ、ダイヤル一つで、弦の調律やハンマーの硬さの調節など、ピアニスト自らがピアノを「調律」できるのがV-Pianoの大きな特長。ステージで曲目にあわせて、ピアノを弾き分けることも可能です。

ピアノの過去・未来。2つの方向性をもつデジタル・ピアノ

Vintageピアノ・モデル

極上を意味する「Vintage」。その名のとおり、世界の銘器といわれるピアノのサウンドを忠実に再現したピアノ・モデルです。クラシカルなアンティーク・ピアノから、モダンなコンサート・グランドピアノまで多彩なサウンド・バリエーションを用意しています。

Vanguardピアノ・モデル

300年以上のピアノの歴史に敬意を払いながら、V-Pianoの獨創性がつくり出した全く新しいピアノ・モデルです。“全音域銅巻3本弦”による重厚な低音の響きをもった音や、銅よりも重くしなやかな銀巻線による伸びのあるきらびやかな音など、アコースティック・ピアノでは構造上物理的に不可能だった、全く新しい表現力をもったピアノ音を生み出します。



伸びのある、そのきらびやかなピアノ音は、まさに新しいピアノ・サウンドです。

全弦を銀巻弦のトリプル弦にしたイメージ図

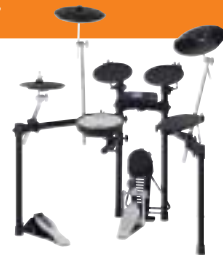


電子ピアノを開発して36年。目指すのは、「電子ピアノだからできる無限の表現力」  
ローランドは、1973年に純電子発振式ピアノEP-10を発表。その翌年には、鍵盤タッチにより強弱が変化する世界初タッチ・センス付きの電子ピアノEP-30を発表しました。その後研究を重ね、1986年には自然で表現力豊かなピアノ音色を再現できる世界初フル・デジタルのRD-1000を発表しました。  
そして今年、ローランドの経験と技術力を結集してV-Pianoが誕生。構想から約10年の歳月を経て開発されたV-Pianoは、銘器と呼ばれるアコースティック・ピアノの極上サウンドはもちろん、物理的制約を受けない新しいピアノ・サウンドをも生み出します。ローランドが目指すのは、「電子ピアノだからできる無限の表現力」。電子ピアノに秘められた可能性は、限りなく広がっています。

TD-4K-S

自宅でドラムを楽しめるV-Drumsの新しいラインアップ

表現力がより豊かになった新音源を搭載し、演奏意欲をかき立てるデザインに。効果的な練習が行えるトレーニング機能も充実しました。



DT-HD1

V-Drums Lite HD-1とパソコンで楽しくドラムを練習できるソフトウェア

ドラム譜画面とゲーム画面で、初心者でもリッピングで気軽にドラム演奏をマスターできるソフトウェア・パッケージです。



FR-1

電子アコーディオンのエントリー・モデル

初めての方にも扱いやすい小型・軽量サイズで、様々なアコーディオン音色やオーケストラ音色を楽しめます。ピアノ鍵盤タイプとボタンタイプの2種類をご用意しています。



ME-70

つまみとペダルのシンプル操作で多彩な音づくりが可能なギター用マルチ・エフェクター

新開発のDSP搭載により音質が格段に向上。独自のサウンド・モデリング技術COSMによるプリアンプ・モデリングで、こだわりの音づくりやギターの自然な弾き心地を実現しています。



TU-12BW

吹奏楽やオーケストラなど管楽器専用のチューナー

バス・チューバやピッコロまで様々な管楽器に幅広く対応します。その他、ステージ・チューナーやギター/ベース用チューナーなど、BOSSチューナーのラインアップを一新しました。



SONAR V-STUDIO 700

ローランドとCakewalk社が共同開発した音楽制作システム

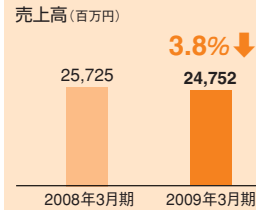
Windowsベースの最新音楽制作ソフトウェアとローランドが専用開発したハードウェアを使いやすく統合。楽曲制作に必要なプロ仕様の機能をすべて搭載しています。



# 営業の概況

## ■電子楽器事業

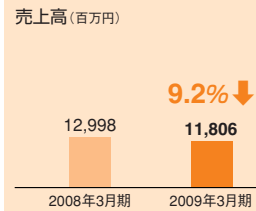
### 電子楽器



2008年度前半は、シンセサイザーの主力機種でライブ演奏や楽曲制作用のワークステーション・シンセサイザーの新製品や、多くのプロ・ミュージシャンに愛用されているステージ・ピアノの新製品などが、国内外において好調に推移しましたが、年度後半に入り、特に北米においてシンセサイザーや電子ドラムの高価格帯機種の販売が低下しました。



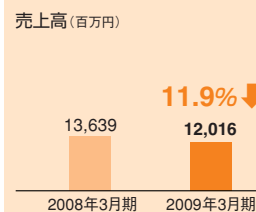
### ギター関連電子楽器



国内外において、ギター・エフェクターが堅調に推移するものの、中価格帯以上のギター・ユーザー向けレコーダーを中心に販売が減少しました。



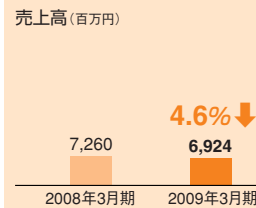
### 家庭用電子楽器



電子ピアノは、国内では、中価格帯以上の製品は堅調に推移するものの、他社競合製品の影響により低価格帯を中心に販売が減少しました。また、住宅景気が低迷する北米においても、個人消費が急速に冷え込み、販売は伸び悩みました。



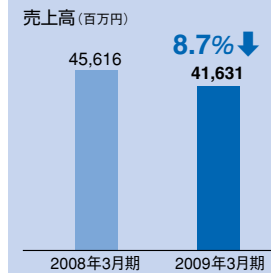
### 映像・音響及びコンピュータ・ミュージック機器



映像・音響機器では、当社が独自開発したデジタル音声伝送技術を活用した業務用音響システムの販売が、海外を中心に伸びました。一方で、コンピュータ・ミュージック機器のフィールド・レコーダーが、他社との競争激しく、国内外において販売が低下しました。



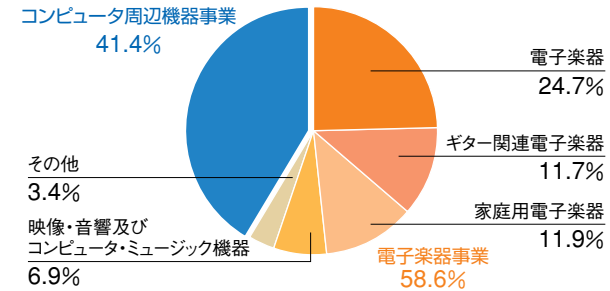
## ■コンピュータ周辺機器事業



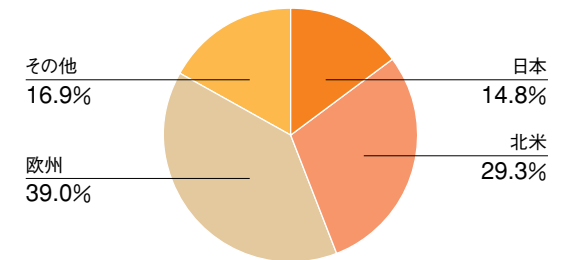
「カラー」の分野では、さまざまな素材への印刷が可能なUVプリンターを投入し新規市場の開拓を図りましたが、企業の設備投資意欲の後退、資金調達環境の悪化等により、プリンターの販売が減少しました。「3D」の分野では、アクセサリ製作向けに、ジュエリーのデザインから原型製作の一連のプロセスをパッケージにした製品を投入しましたが、宝飾業界の景況感悪化等により伸び悩みました。また、治具製作等のものづくり現場向けの切削機も、企業の設備投資意欲の後退により主力機種の販売が低下しました。



### 事業セグメント別売上高構成比



### 地域別売上高構成比



### ブランドのご紹介

電子楽器のトップ・ブランドとして培った技術をベースに、ローランドは多彩なブランドを展開しながら事業領域を広げています。

**Roland**  
最先端の技術で電子楽器の世界をリードする  
電子楽器の総合ブランド

**BOSS**  
ギタリストの夢をかなえるブランド

**EDIROL**  
by Roland  
映像関連機器と  
フィールド・レコーダーのブランド

**cakewalk**  
by Roland  
コンピュータ・ミュージックに特化した  
総合ブランド

**rsS**  
by Roland  
音響空間を演出するブランド

**RODGERS**  
デジタル技術と伝統の技が融合した  
クラシック・オルガンのブランド

**Roland**  
業務用大型カラープリンターの  
世界トップ・ブランド

# 連結財務諸表(要旨)

## 連結貸借対照表

科目	当 期 2009年3月31日現在	前 期 2008年3月31日現在
<b>資産の部</b>		
流動資産	63,410	64,971
現金及び預金	22,951	19,991
① 受取手形及び買掛金	10,247	13,906
② たな卸資産	22,864	23,672
その他	7,807	7,797
貸倒引当金	△459	△395
固定資産	30,475	33,720
有形固定資産	18,961	19,310
建物及び構築物	8,489	7,900
工具器具備品	1,698	1,930
土地	7,586	7,720
その他	1,186	1,758
無形固定資産	2,118	2,554
投資その他の資産	9,395	11,855
③ 投資有価証券	3,596	4,814
その他	5,926	7,130
貸倒引当金	△127	△89
資産合計	93,886	98,692

- ① 受取手形及び売掛金  
円高による為替換算差額の影響および販売減少により、36億円減少しました。
- ② たな卸資産  
実質的に33億円増加しましたが、円高による為替換算差額(△41億円)の影響により、8億円減少しました。
- ③ 投資有価証券  
投資有価証券の評価減により、12億円減少しました。

科目	当 期 2009年3月31日現在	前 期 2008年3月31日現在
<b>負債の部</b>		
流動負債	19,520	16,906
支払手形及び買掛金	3,415	6,257
④ 短期借入金	9,511	379
⑤ その他	6,592	10,269
固定負債	2,866	3,095
負債合計	22,386	20,002
<b>純資産の部</b>		
株主資本	59,645	59,424
資本金	9,274	9,274
資本剰余金	10,801	10,801
利益剰余金	40,259	40,037
自己株式	△689	△689
⑥ 評価・換算差額等	△5,455	508
少数株主持分	17,309	18,756
純資産合計	71,499	78,689
負債純資産合計	93,886	98,692

- ④ 短期借入金  
手元資金増強及び為替リスクヘッジのための借入等により、91億円増加しました。
- ⑤ その他流動負債  
課税所得減少による未払法人税等の減少(△18億円)と円高による為替の影響(△12億円)等により、36億円減少しました。
- ⑥ 評価・換算差額等  
円高により為替換算調整勘定が59億円減少しました。

## 連結損益計算書

科目	当 期 (2008年4月1日から 2009年3月31日まで)	前 期 (2007年4月1日から 2008年3月31日まで)
売上高	100,506	108,560
売上原価	57,709	60,615
売上総利益	42,796	47,945
販売費及び一般管理費	35,366	34,611
営業利益	7,430	13,333
営業外収益	927	1,234
① 営業外費用	2,307	1,477
経常利益	6,050	13,090
特別利益	134	105
② 特別損失	1,017	117
税金等調整前当期純利益	5,168	13,078
法人税等	2,089	5,895
少数株主利益	2,031	3,561
当期純利益	1,047	3,621

- ① 営業外費用  
主に円高による外貨建資産等で、8億円増加しました。
- ② 特別損失  
投資有価証券の評価損等により、9億円増加しました。

## 連結株主資本等変動計算書

科目	株主資本				株主資本合計	評価・換算差額等				少数株主 持分	純資産 合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式		その他有価証券 評価差額金	土地再評価 差額金	為替換算 調整勘定	評価・換算 差額等合計		
2008年3月31日残高	9,274	10,801	40,037	△689	59,424	55	△1,498	1,951	508	18,756	78,689
在外子会社の会計処理の 変更に伴う増加額	—	—	35	—	35	—	—	—	—	—	35
持分法適用関連会社の 会計処理の変更に伴う減少額	—	—	△45	—	△45	—	—	—	—	—	△45
<b>連結会計年度中の変動額</b>	—	—	△816	—	△816	—	—	—	—	—	△816
剰余金の配当	—	—	1,047	—	1,047	—	—	—	—	—	1,047
当期純利益	—	—	—	△1	△1	—	—	—	—	—	△1
自己株式の取得	—	△0	—	1	1	—	—	—	—	—	1
自己株式の処分	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
株主資本以外の項目の 連結会計年度中の変動額(純額)	—	—	—	—	—	△12	—	△5,952	△5,964	△1,447	△7,411
連結会計年度中の変動額合計	—	△0	231	△0	231	△12	—	△5,952	△5,964	△1,447	△7,180
2009年3月31日残高	9,274	10,801	40,259	△689	59,645	43	△1,498	△4,000	△5,455	17,309	71,499

## 連結キャッシュ・フロー計算書

科目	当 期 (2008年4月1日から 2009年3月31日まで)	前 期 (2007年4月1日から 2008年3月31日まで)
① 営業活動によるキャッシュ・フロー	1,540	8,026
② 投資活動によるキャッシュ・フロー	△2,914	△7,270
③ 財務活動によるキャッシュ・フロー	6,980	△3,201
現金及び現金同等物に係る換算差額	△2,244	△413
現金及び現金同等物の増減額	3,360	△2,859
現金及び現金同等物の期首残高	19,554	22,413
新規連結及び合併に伴う 現金及び現金同等物の増加額	163	—
現金及び現金同等物の期末残高	23,078	19,554

- ① 営業活動によるキャッシュ・フロー  
営業活動によるキャッシュ・フローは15億円となり、前期比64億円の減少となりました。収入減少は、主に税金等調整前当期純利益の減少(△79億円)によります。
- ② 投資活動によるキャッシュ・フロー  
投資活動によるキャッシュ・フローは△29億円となり、前期比43億円の支出減となりました。支出減少は、主に固定資産の取得の減少(16億円)や投資有価証券の取得の減少(10億円)等によります。
- ③ 財務活動によるキャッシュ・フロー  
財務活動によるキャッシュ・フローは69億円となり、前期比101億円の増加となりました。収入増加は、主に手元資金増強及び為替リスクヘッジのための借入等の増加によります。

会社の概要 (2009年3月31日現在)

商号	ローランド株式会社 (Roland Corporation)
設立	1972年4月18日
資本金	9,274百万円
主な事業内容	電子楽器、電子機器およびそのソフトウェアの製造販売並びに輸出入
従業員数	2,708人(連結) 806人(単体)

役員の状況 (2009年6月19日現在)

取締役社長	(代表取締役) 田中 英一
専務取締役	西澤 一朗
常務取締役	近藤 公孝
取締役	柳瀬 和也
取締役	池上 嘉宏
取締役	木下 裕史
取締役	刀祢 雅広
取締役	水本 浩一
取締役相談役	檀 克義
取締役	富岡 昌弘
取締役	デニス・フォーリハン
取締役	ジョン・ブース
社外取締役	佐藤 克昭
常勤監査役	河合 保
常勤監査役	上野 博司
社外監査役	川島 実
社外監査役	前川 三喜男
特別顧問	梯 郁太郎
会計監査人	監査法人トーマツ

事業所 (2009年3月31日現在)

本社工場	静岡県浜松市北区細江町中川2036番地の1
工場	都田工場、伊左地工場、松本工場
研究所	浜松研究所
試験センター	都田試験センター
流通センター	浜松流通センター
国内オフィス	札幌、東京、名古屋、大阪、福岡
海外オフィス	ロッテルダム
ローランドRMS音楽教室	<センター直営教室> 札幌/渋谷/浜松/名古屋/京都/梅田/広島/福岡 <ローランド・サテラ> 横浜

グループ各社 (国内) (2009年3月31日現在)

製造	ボス株式会社
製造	ローランド エスジー株式会社
製造販売	ローランド エンジニアリング株式会社
製造販売	ローランド ディー・ジー 株式会社
製造販売	アトリエビジョン株式会社

(注) ローランド エンジニアリング株式会社は、2009年4月1日付にてローランド株式会社が吸収合併しました。

グループ各社 (海外) (2009年3月31日現在)

販売	Roland Corporation U.S. Roland Systems Group U.S. Roland Canada Ltd. Roland Brasil Importação, Exportação, Comércio, Representação e Serviços Ltda. Roland Corporation Australia Pty., Ltd. Roland (U.K.) Ltd. Edirol Europe Ltd. Roland Elektronische Musikinstrumente HmbH. Roland Central Europe n.v. Electronic Musical Instruments Roland Scandinavia A/S Roland Iberia, S.L. Roland (Switzerland) AG Roland Italy S.p.A. Roland East Europe Ltd. Roland Taiwan Enterprise Co.,Ltd. Roland Asia Pacific Sdn.Bhd. Roland (Shanghai) Logistics Co.,Ltd.
製造	Rodgers Instruments LLC Roland Taiwan Electronic Music Corp. Roland Electronics (Suzhou) Co.,Ltd. Roland Europe S.p.A. Cakewalk, Inc.

(注) Rodgers Instruments LLCは、2009年5月31日付にて Rodgers Instruments Corporationに社名変更しました。

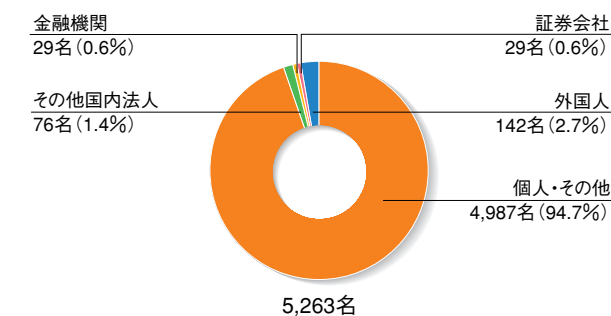
発行株式数および株主数 (2009年3月31日現在)

発行可能株式総数	60,000,000株
発行済株式総数	25,572,404株
自己株式数	464,247株
株主数	5,263名

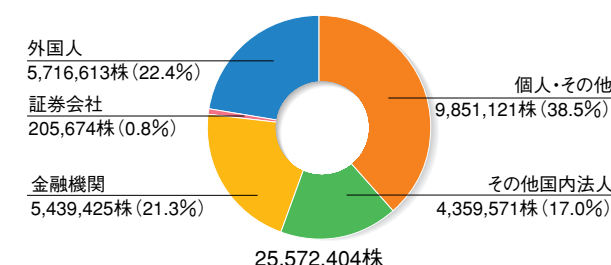
大株主 (2009年3月31日現在)

株主名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
財団法人ローランド芸術文化振興財団	2,335	9.1
梯 郁太郎	1,507	5.9
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口)	1,360	5.3
タイヨウ ファンド エルピー	1,291	5.0
ノーザントラスト カンパニー (エイブイエフイー) サブアカウント アメリカン クライアント	1,084	4.2
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	1,019	4.0
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口4G)	893	3.5
パイオニア興産株式会社	800	3.1
ローランド社員持株会	672	2.6
株式会社りそな銀行	561	2.2

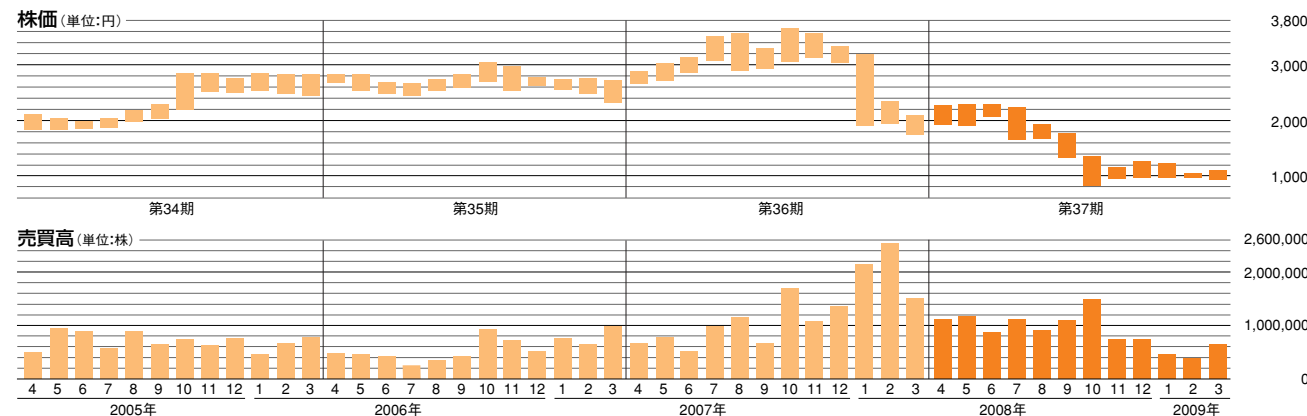
所有者別株主分布状況 (2009年3月31日現在)



所有者別株式分布状況 (2009年3月31日現在)



株価及び売買高の推移 2005年4月~2009年3月





## 株主メモ

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで  
定時株主総会 毎年6月  
単元株式数 100株  
基準日 定時株主総会の議決権 3月31日  
          期末配当金 3月31日  
          中間配当金 9月30日  
(その他必要があるときは、あらかじめ公告して定めます。)

上場証券取引所 東京・大阪証券取引所市場第一部

株主名簿管理人/  
特別口座の口座管理機関 株式会社だいこう証券ビジネス

株主名簿管理人 大阪市中央区北浜二丁目4番6号  
事務取扱場所 株式会社だいこう証券ビジネス 本社証券代行部  
(各種お問い合わせ先) 株式会社だいこう証券ビジネス 証券代行事務センター

■株式事務に関するご照会 電話0120-255-100 (通話料無料)

■特別口座に関するご照会 電話0120-351-465 (通話料無料)  
(受付時間 9:00~17:00 (土、日、祝祭日、12月31日~1月3日を除く))

■WEBサイト <http://www.daiko-sb.co.jp/>

(郵便物送付先) 〒541-8583 大阪市中央区北浜二丁目4番6号  
株式会社だいこう証券ビジネス 証券代行事務センター

公告方法 電子公告とし、以下の当社ホームページに掲載します。  
ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告が  
できない場合は、日本経済新聞に掲載します。  
<http://www.roland.co.jp/ir/koukoku.html>

## ローランドIRサイトのご案内

ローランドホームページでは、最新のニュースリリースやIR情報を掲載しています。

<http://www.roland.co.jp/>



IRメール配信を行っています。  
ぜひ、ご登録ください。

**Roland**  
— WE DESIGN THE FUTURE —

<http://www.roland.co.jp/>